

■ 時間割番号	■ 科目名[英文名]	■ 単位数
	野生動物被害防止論 [Wildlife damage control]	1
担当教員(責任)[ローマ字表記]		
高柳 敦 [TAKAYANAGI Atsushi]		
■ 担当教員[ローマ字表記]		
高柳 敦 [TAKAYANAGI Atsushi]		

■ 授業題目(必須入力)

野生動物被害防止論 [Wildlife damage control]
-------------------------------------

■ 授業のキーワード(必須入力)

大型哺乳動物 [Large mammalian species]、被害管理 [Damage control]、ニホンジカ [Sika deer]、防鹿柵 [Deer proof fence]、被害防除コンサルタント [Wildlife damage control consultancy]
---

■ 授業の目的(必須入力)

ニホンジカおよびニホンカモシカによる森林被害の発生機構と被害防止について、生態学的に理解し、実際に防鹿柵の設置・維持管理の手法について理解する。
--

■ 授業の到達目標(必須入力)

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 野生動物保護管理の基本的な考え方を理解する</li> <li>2. 生物多様性保全の基礎を理解する。</li> <li>3. ニホンジカ、ニホンカモシカなどの生態を理解する。</li> <li>4. ニホンジカやニホンカモシカの被害発生機構と社会的背景を理解する。</li> <li>5. 総合的な野生動物被害対策について理解する。</li> <li>6. 防鹿柵の設置技術について理解する。</li> </ol>
---

■ ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標)／共通教育の理念・教育方針に関わる項目

<p>(知識・理解)生物多様性保全の科学的基礎と社会的役割、在来大型哺乳類の生態と被害の発生機構、野生動物保護管理の基本的理念と実現するための社会的仕組み、<b>防護柵による被害防止の基本的考え方、の4点</b>について理解している。</p> <p>(思考・判断)野生動物被害問題の多面性を考慮しながら被害防止対策を考えることができ、現場の条件を的確に判断して、適切な被害対策の設計、設置、維持管理について解決策を見いだすことができる。</p>
--

■ 授業概要(必須入力)

<p>現代において野生動物を何故保全するのかについて生物多様性保全の視点から説明し、野生動物を保全しつつ被害を防ぐために、生息環境管理、個体数管理、被害管理を組み合わせる総合的に取り組むことが必要であることを野生動物保護管理の基礎として概説する。特に、在来大型哺乳動物であるニホンジカとニホンカモシカを取り上げ、その生態を解説するとともに森林被害の発生機構について科学的に理解する姿勢を促す。具体的な被害対策の一つとして、防鹿柵の設計・設置・維持管理について学び、現場と被害者の状況から適切な被害防止対策を提案する被害防除コンサルタントのあり方について理解を深める。講義は久万高原キャンパスで行い、実際の現場を見ながら進めることとする。</p>
--

■ 授業スケジュール(必須入力)

<p>第1講 野生動物保護管理と森林の保全 野生動物問題の基礎、野生動物保護管理とは何か、森林の保全の歴史と野生動物問題</p> <p>第2講 生物多様性の保全の基礎 生物多様性とは何か、希少種問題、外来生物問題、日本の哺乳類</p> <p>第3講 ニホンジカ・ニホンカモシカの生態と保護管理 ニホンジカ・ニホンカモシカの分布・食性・繁殖、保護管理の歴史、被害問題</p> <p>第4講 ニホンジカによる生態系劣化と狩猟の現況 ニホンジカによる生態系劣化の現状、ニホンジカと生態系、狩猟とニホンジカ問題、ジビエ利用の意義</p> <p>第5講 森林被害防止論ー森林保護から総合的対策へ 森林被害と森林保護学、森林保護学から保護管理論へ、捕獲と防除の役割、総合的な被害対策</p> <p>第6講 被害防止対策の基本 被害防止対策の基本、電気柵の基本、イノシシ、ニホンザルなどの被害防止の基礎</p> <p>第7講 ニホンジカ・ニホンカモシカ被害対策 被害対策の選択、防鹿柵の構造(耐雪構造を含む)、設置ラインの選定、構造の決定、標準施工、維持管理</p> <p>第8講 防鹿柵設置・維持管理技術の習得 具体的な設置技術(支柱の位置や地際の押さえ方など)と維持管理技術(支柱間管理、記録用紙など)</p>
--

📌 授業時間外学習にかかわる情報 (必須入力)

講義資料にもとづく復習、参考文献による予習、講義に関係して出された課題についてまとめる	
---	--

📌 成績評価方法 (必須入力)

出席および講義や実習における積極性 (20%) 講義内容に関連する事項に関するレポート (80%)	
--	--

📌 受講条件 (任意入力)

実際に被害に困っている現場を持っている、またはそういう人や地域を知っている、ないしは被害問題に実際に関わってみたいと強く思っていることが必要。	
---	--

📌 受講のルール (任意入力)

--	--

📌 教科書 (購入する必要のある図書) (必須入力)

教科書1	書名		ISBN	
	著者名		出版社	出版年
教科書2	書名		ISBN	
	著者名		出版社	出版年

📌 参考書 (購入する必要はないが、推奨する図書) (必須入力)

参考書1	書名		ISBN	
	著者名		出版社	出版年
参考書2	書名		ISBN	
	著者名		出版社	出版年

📌 教科書・参考書に関する補足情報 (必須入力)

必要に応じてプリントを配付する。	
------------------	--

📌 オフィスアワー (必須入力)

講義日の最終講義終了後、2時間程度。メールによる問合せも受け付ける。	
------------------------------------	--

📌 連絡先 (必須入力)

--	--

📌 参照ホームページ (任意入力)

--	--

📌 その他 (任意入力)

--	--